

2021年3月期 第2四半期 決算説明資料

株式会社サニックス
2020年11月17日

1. 2021年3月期 第2四半期 決算概況 P.3

2. 2021年3月期 通期業績見通し P.13

【免責事項】

本資料には、将来の業績予測に関する記述が含まれています。こうした将来の業績予測に関する記述は、将来業績を保証することを意図するものではなく、一定の前提条件と経営陣の現時点で入手可能な情報による判断に基づくものです。従いまして、以下の要因をはじめとする様々な要因により、将来時点における実際の収益及び業績は、業績予測に関する記述と大きく異なる可能性があります。

新型コロナウイルス感染状況及び政府・自治体の対応、日本の景気動向、「再生可能エネルギーの固定買取制度」の動向、廃棄物（特に廃プラスチック類）の取扱いに関わる動向、他の業者との競争環境、技術革新、規制環境、法律環境及びその他の当社の予測を超える様々な要因。

本資料は当社が発行する証券への投資を勧誘することを企図した資料ではありません。本資料に含まれる情報に基づいて発生した損失・債務に関して、当社は一切の責任を負わない旨をご了承下さい。

(注)

- ・ 数値については、単位未満を切り捨てて表示しております。
- ・ 営業利益、経常利益、当期純利益の”△”表記は、それぞれ営業損失、経常損失、当期純損失を表します。
- ・ 比率がマイナスあるいは1000%を超える値の場合「-」で表示しております。

2021年3月期 第2四半期 決算概況

2021年3月期 第2四半期 連結決算概況

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期				
	2Q累計実績	2Q累計実績	前年同期比	前年同期差異	計画	計画差異
売上高	24,538	23,947	97.6%	△ 590	24,180	△ 233
売上総利益 (売上高売上総利益率)	8,863 36.1%	9,132 38.1%	103.0%	+ 269	8,934 36.9%	+ 197
営業利益 (売上高営業利益率)	1,551 6.3%	1,664 7.0%	107.3%	+ 112	1,306 5.4%	+ 358
経常利益 (売上高経常利益率)	1,429 5.8%	1,562 6.5%	109.3%	+ 133	1,197 5.0%	+ 365
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (売上高四半期純利益率)	1,140 4.6%	1,410 5.9%	123.7%	+ 270	982 4.1%	+ 427

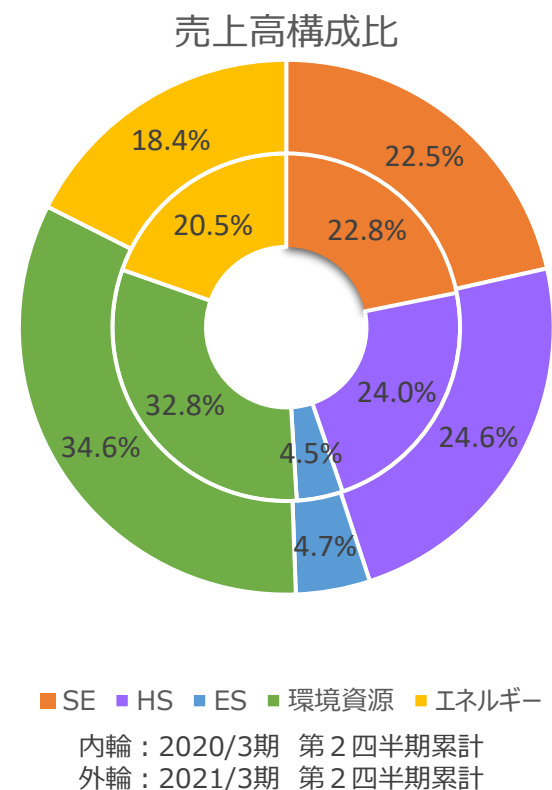
■売上高 S E事業部門は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり「太陽光発電システム」の新規案件の営業が遅れたことにより、施工がずれ込み前年同期比減収となり、エネルギー事業部門は高圧供給先の1件あたりの供給電力量の減少及び市場への卸売電力量の減少等により減収となりました。また、H S事業部門は緊急事態宣言時に新規営業を自粛したものの前年同期並みとなり、E S事業部門、環境資源開発事業部門は前年同期比増収となりました。この結果、グループ全体の売上高は23,947百万円（前年同期比2.4%減）となりました。

■利益 増収を背景として環境資源開発事業部門は増益となり、減収となったS E事業部門、エネルギー事業部門が減益となったほか、H S事業部門、E S事業部門においては人員増等によるコスト増加により減益となりました。この結果、グループ全体の損益は、1,664百万円の営業利益（前年同期比7.3%増）、1,562百万円の経常利益（前年同期比9.3%増）、1,410百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益（前年同期比23.7%増）となりました。

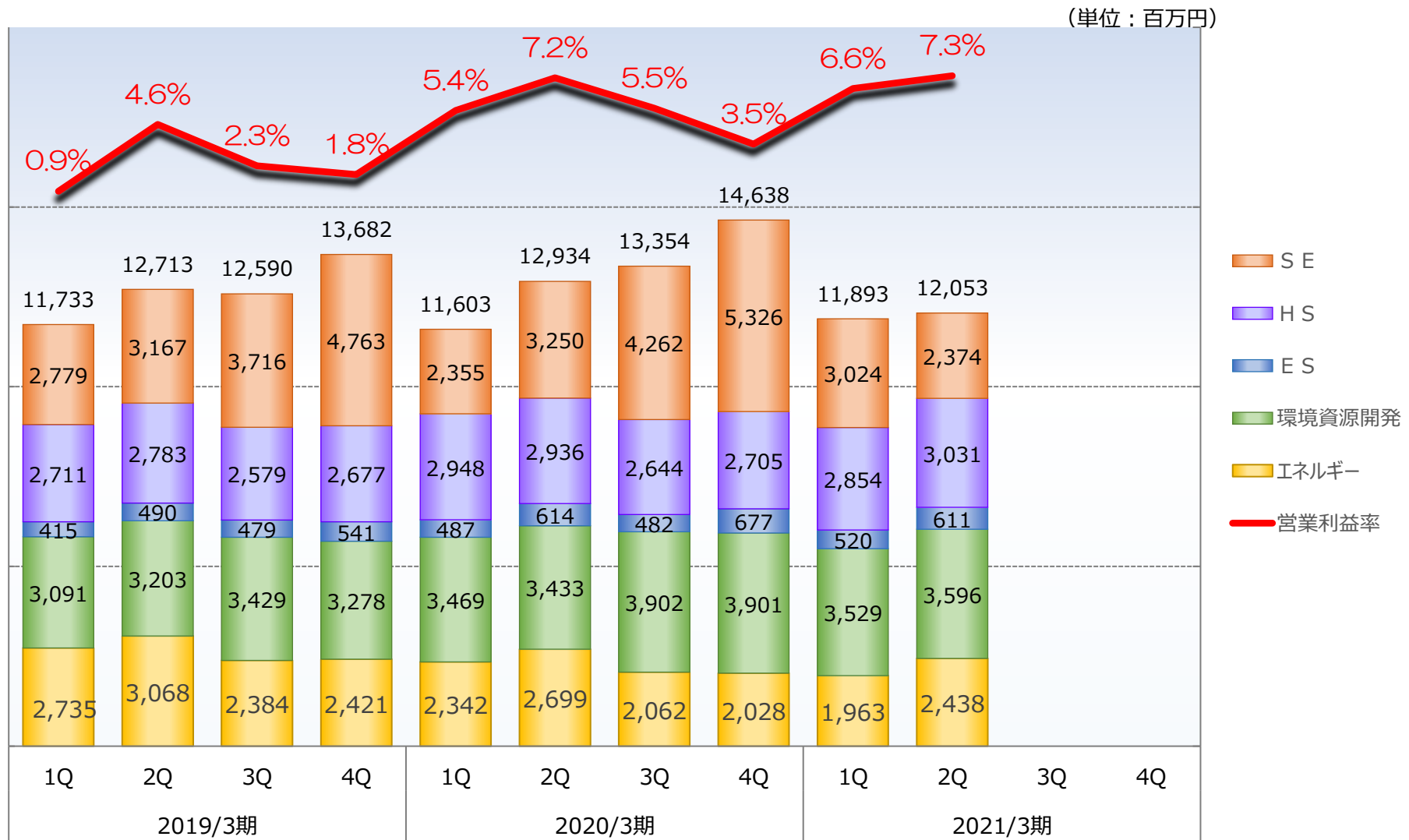
2021年3月期 第2四半期 セグメント別損益実績

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期		
	2Q累計実績	2Q累計実績	前年同期比	計画
売上高	24,538	23,947	97.6%	24,180
S E 部門	5,606	5,399	96.3%	5,625
H S 部門	5,884	5,886	100.0%	5,869
E S 部門	1,102	1,132	102.8%	1,096
環境資源開発部門	8,045	8,296	103.1%	8,308
エネルギー部門	5,041	4,402	87.3%	4,508
セグメント間の 内部売上高調整額	△ 1,142	△ 1,169	—	△ 1,227
営業利益	1,551	1,664	107.3%	1,306
S E 部門	298	233	78.3%	154
H S 部門	1,235	1,168	94.6%	1,156
E S 部門	137	118	86.4%	110
環境資源開発部門	1,655	1,974	119.3%	1,715
エネルギー部門	△ 30	△ 33	—	15
配賦不能	△ 1,744	△ 1,798	—	△ 1,845



【参考】セグメント別売上高の推移



・「セグメント間の内部売上高調整額」は環境資源開発の売上高から差し引いております。

2021年3月期 第2四半期 セグメント別実績【SE事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期		2021/3期				
	2Q累計実績	売上比	2Q累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	5,606		5,399		96.3%	5,625	
施工売上	5,417	96.6%	5,248	97.2%	96.9%	5,467	97.2%
卸販売	121	2.2%	98	1.8%	81.4%	101	1.8%
その他	67	1.2%	51	1.0%	76.3%	56	1.0%
売上原価	3,655	65.2%	3,656	67.7%	100.0%	3,902	69.4%
うち、材料費等	2,127	38.0%	2,104	39.0%	98.9%	2,237	39.8%
うち、労務費	338	6.0%	328	6.1%	97.1%	329	5.9%
売上総利益	1,950	34.8%	1,742	32.3%	89.3%	1,722	30.6%
販売費・一般管理費	1,652	29.5%	1,508	27.9%	91.3%	1,567	27.9%
うち、人件費	885	15.8%	835	15.5%	94.3%	886	15.8%
営業利益	298	5.3%	233	4.3%	78.3%	154	2.8%

前期からの継続案件である土地付太陽光発電の施工は好調に推移したものの、SE事業部門は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり新規案件の営業が遅れたことにより、「太陽光発電システム」が減収となりました。この結果、売上高は5,399百万円(前年同期比3.7%減)となりました。

営業損益は、販管費のコストを抑制したものの減収の影響が大きく、233百万円の営業利益(前年同期比21.7%減)となりました。

2021年3月期 第2四半期 セグメント別実績【HS事業部門】

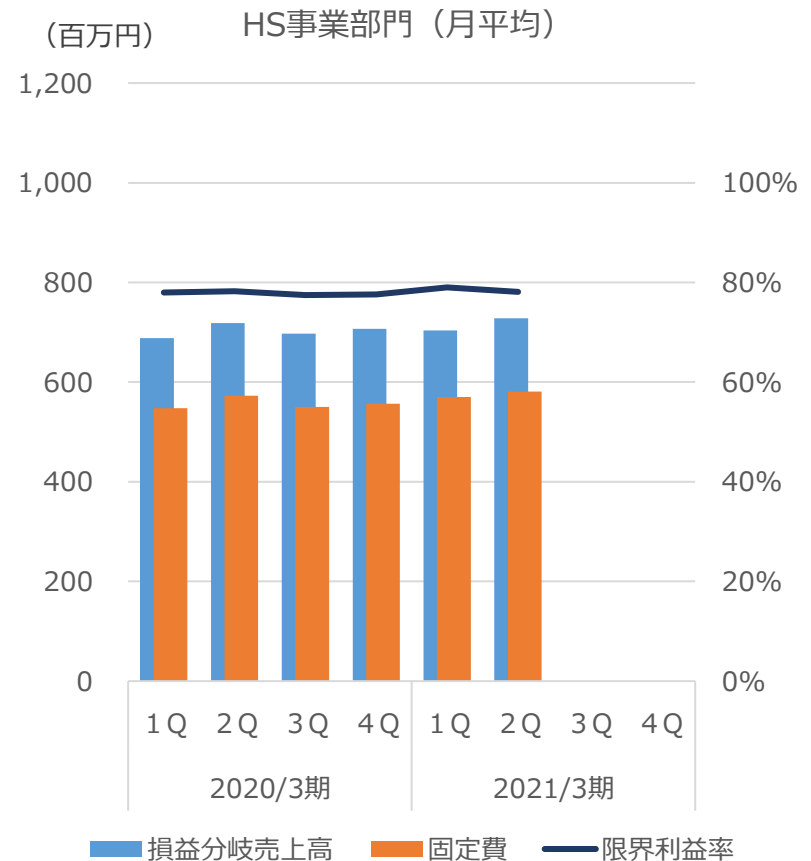
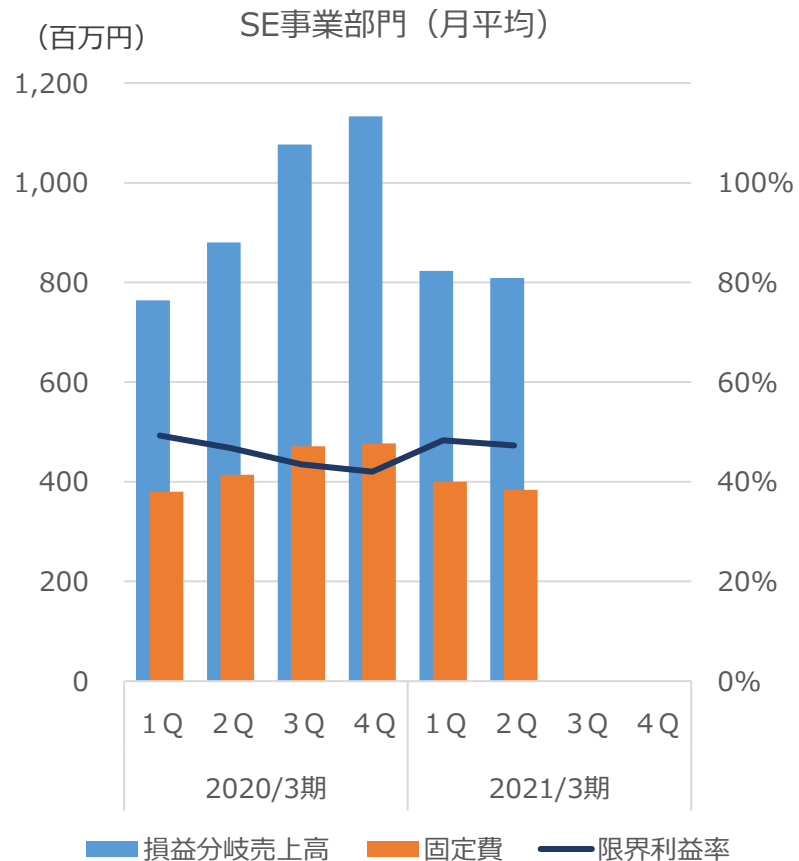
(単位：百万円)

	2020/3期		2021/3期				
	2Q累計実績	売上比	2Q累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	5,884		5,886		100.0%	5,869	
白蟻防除施工	1,991	33.8%	1,931	32.8%	97.0%	1,977	33.7%
床下・天井裏換気システム	1,187	20.2%	1,520	25.8%	128.1%	1,392	23.7%
基礎補修・家屋補強工事	969	16.5%	845	14.4%	87.2%	920	15.7%
その他	1,736	29.5%	1,588	27.0%	91.5%	1,578	26.9%
売上原価	2,278	38.7%	2,245	38.2%	98.6%	2,238	38.1%
うち、労務費	786	13.4%	797	13.5%	101.4%	810	13.8%
売上総利益	3,606	61.3%	3,640	61.8%	100.9%	3,630	61.9%
販売費・一般管理費	2,371	40.3%	2,471	42.0%	104.2%	2,473	42.2%
うち、人件費	1,455	24.7%	1,559	26.5%	107.1%	1,533	26.1%
営業利益	1,235	21.0%	1,168	19.9%	94.6%	1,156	19.7%

HS事業部門では、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言時は、新規営業を自粛しお客様からのお問い合わせへの対応を行ってまいりました。緊急事態宣言解除後は、感染防止対策を徹底したうえで通常営業に戻ってまいりました。このような環境の中、「白蟻防除施工」が前年同期比3.0%減、「基礎補修・家屋補強工事」が前年同期比12.8%減となったものの、「床下・天井裏換気システム」が前年同期比28.1%増となりました。この結果、売上高は5,886百万円（前年同期比0.0%増）となりました。

営業損益は、人員増により人件費等のコストが増加したことにより、1,168百万円の営業利益（前年同期比5.4%減）となりました。

【参考】 限界利益率・損益分岐売上高の推移



S E 事業部門の2020/3期の第4四半期は、材料費に棚卸資産評価損として644百万円を計上しているが、上記計算では影響を除いている。

2021年3月期 第2四半期 セグメント別実績【ES事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期		2021/3期				
	2Q累計実績	売上比	2Q累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	1,102		1,132		102.8%	1,096	
売上原価	531	48.3%	522	46.1%	98.2%	504	46.0%
うち、労務費	125	11.4%	126	11.2%	100.4%	121	11.1%
売上総利益	570	51.7%	610	53.9%	107.0%	592	54.0%
販売費・一般管理費	432	39.3%	491	43.4%	113.6%	482	44.0%
うち、人件費	263	23.9%	293	25.9%	111.5%	286	26.1%
営業利益	137	12.5%	118	10.5%	86.4%	110	10.0%

ES事業部門は、前期以前からの積極的な人員の増加や新規出店により、ビル・マンション等のオーナー及び管理会社等提携先との関係を強化してまいりました。主力商品である「防錆機器取付施工（商品名：ドールマンショック）」が前年同期比2.5%増、「建物給排水補修施工」が前年同期比32.9%増となったものの、「建物防水塗装補修施工」は前年同期比41.9%減となりました。この結果、売上高は1,132百万円（前年同期比2.8%増）となりました。営業損益は、人員増による人件費等のコスト増加が増収による利益増加の効果を上回ったため、118百万円の営業利益（前年同期比13.6%減）となりました。

2021年3月期 第2四半期 セグメント別実績【環境資源開発事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期		2021/3期				
	2Q累計実績	売上比	2Q累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	8,045		8,296		103.1%	8,308	
プラスチック燃料	4,703	58.5%	5,146	62.0%	109.4%	5,093	61.3%
発電所売上	1,644	20.4%	1,570	18.9%	95.5%	1,660	20.0%
有機廃液処理	962	12.0%	921	11.1%	95.8%	957	11.5%
埋立処理	470	5.8%	384	4.6%	81.7%	330	4.0%
その他	264	3.3%	272	3.3%	103.1%	266	3.2%
売上原価	5,456	67.8%	5,408	65.2%	99.1%	5,639	67.9%
うち、労務費	889	11.1%	918	11.1%	103.3%	925	11.1%
売上総利益	2,589	32.2%	2,888	34.8%	111.5%	2,669	32.1%
販売費・一般管理費	934	11.6%	914	11.0%	97.9%	953	11.5%
うち、人件費	517	6.4%	538	6.5%	104.1%	545	6.6%
営業利益	1,655	20.6%	1,974	23.8%	119.3%	1,715	20.6%

廃プラスチック類の受入量が減少しましたが受入物件の精査により「プラスチック燃料」が前年同期比9.4%増となりました。一方、「発電所売上」が前年同期比4.5%減、受入量の減少により「有機廃液処理」が前年同期比4.2%減、「埋立処理」が前年同期比18.3%減となりました。この結果、売上高は8,296百万円（前年同期比3.1%増）となりました。

営業損益は、廃プラスチック類の受入物件精査等による収益性の向上により、1,974百万円の営業利益（前年同期比19.3%増）となりました。

2021年3月期 第2四半期 セグメント別実績【エネルギー事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期		2021/3期				
	2Q累計実績	売上比	2Q累計実績	売上比	前年同期比	計画	計画売上比
売上高	5,041		4,402		87.3%	4,508	
売上原価	4,895	97.1%	4,151	94.3%	84.8%	4,188	92.9%
うち、材料費	4,692	93.1%	3,911	88.8%	83.4%	3,890	86.3%
売上総利益	146	2.9%	250	5.7%	171.1%	319	7.1%
販売費・一般管理費	177	3.5%	283	6.4%	160.3%	304	6.7%
うち、人件費	97	1.9%	162	3.7%	167.9%	169	3.8%
営業利益	△ 30	—	△ 33	—	—	15	0.3%

新電力事業の契約件数の減少により高圧小売量が減少したほか、相対調達の一部解除を行ったことで、電力市場への卸売量が減少したこと等により、売上高は4,402百万円（前年同期比12.7%減）となりました。

営業損益は、相対調達の一部解除により新電力事業の収益率は改善したものの、他社と協業し取り組んでまいりました戸建て住宅を対象とした第三者所有型太陽光発電モデルを推進する人員を増加したことにより人件費等が増加した影響が大きく、33百万円の営業損失（前年同期は30百万円の営業損失）となりました。

2021年3月期 通期業績見通し

2021年3月期 通期連結業績見通し

(単位：百万円)

	2020/3期		2021/3期			
	実績	前期差異	修正計画	前期差異	期初計画	期初計画差異
売上高	52,531	+ 1,811	49,738	△ 2,792	50,343	△ 605
売上総利益 (売上高売上総利益率)	17,556 33.4%	+ 2,726	17,626 35.4%	+ 70	17,562 34.9%	+ 64
営業利益 (売上高営業利益率)	2,791 5.3%	+ 1,566	1,940 3.9%	△ 851	1,940 3.9%	+ 0
経常利益 (売上高経常利益率)	2,592 4.9%	+ 1,409	1,785 3.6%	△ 807	1,785 3.5%	+ 0
親会社株主に帰属する 当期純利益 (売上高当期純利益率)	1,850 3.5%	+ 1,610	1,345 2.7%	△ 505	1,345 2.7%	+ 0

2021年3月期の連結業績予想につきましては、第2四半期連結累計期間の業績を踏まえて、修正いたしました。

売上高につきましては、エネルギー事業部門の売上高減少により前回予想を下回る見込みであります。

利益につきましては、売上高が前回予想を下回るものの、事業部ごとに見直した結果、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益は、期初計画を維持しております。

【参考】 セグメント別業績進捗状況

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期			
	通期実績	修正計画	前期差異	期初計画	期初計画差異
売 上 高	52,531	49,738	△ 2,792	50,343	△ 605
S E 部 門	15,195	12,161	△ 3,033	12,161	+ 0
H S 部 門	11,235	11,474	+ 239	11,474	+ 0
E S 部 門	2,261	2,320	+ 58	2,320	+ 0
環 境 資 源 開 発 部 門	16,759	16,824	+ 64	16,779	+ 45
エ ネ ル ギ - 部 門	9,132	9,266	+ 134	9,916	△ 650
セ グ メ ン ト 間 の 内 部 売 上 高 調 整 額	△ 2,053	△ 2,309	△ 256	△ 2,309	+ 0
営 業 利 益	2,791	1,940	△ 851	1,940	+ 0
S E 部 門	901	381	△ 520	381	+ 0
H S 部 門	2,061	2,017	△ 44	2,017	+ 0
E S 部 門	281	282	+ 0	282	+ 0
環 境 資 源 開 発 部 門	3,483	3,112	△ 370	2,923	+ 189
エ ネ ル ギ - 部 門	△ 485	26	+ 511	116	△ 90
配 賦 不 能	△ 3,452	△ 3,879	△ 426	△ 3,780	△ 98

2021年3月期 セグメント別見通し【SE事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期			
	通期実績	修正計画	前期差異	期初計画	期初計画差異
売上高	15,195	12,161	△ 3,033	12,161	+ 0
施工売上	14,807	11,838	△ 2,968	11,838	+ 0
卸販売	269	221	△ 48	221	+ 0
その他	117	101	△ 16	101	+ 0
売上原価	10,886	8,509	△ 2,377	8,509	+ 0
うち、材料費等	6,711	4,999	△ 1,711	4,999	+ 0
うち、労務費	715	654	△ 61	654	+ 0
売上総利益	4,308	3,652	△ 655	3,652	+ 0
販売費・一般管理費	3,406	3,270	△ 135	3,270	+ 0
うち、人件費	1,878	1,826	△ 51	1,826	+ 0
営業利益	901	381	△ 520	381	+ 0

SE事業部門は、FIT制度の改定によりこれまでの全量売電から自家消費促進の制度設計となったことを受け、販売戦略を自家消費型向けに移行してまいります。しかしながら、戦略変更の効果が表れるには時間を要することや、前期好調であった土地付き太陽光について新規案件が見込めないことから前期比減収を見込んでおります。

2021年3月期 セグメント別見通し【HS事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期			
	通期実績	修正計画	前期差異	期初計画	期初計画差異
売上高	11,235	11,474	+ 239	11,474	+ 0
白蟻防除施工	3,547	3,647	+ 99	3,647	+ 0
床下換気・天井裏換気システム	2,497	2,797	+ 300	2,797	+ 0
基礎補修・家屋補強工事	1,881	1,896	+ 15	1,896	+ 0
その他	3,308	3,133	△ 174	3,133	+ 0
売上原価	4,488	4,513	+ 25	4,513	+ 0
うち、労務費	1,606	1,678	+ 72	1,678	+ 0
売上総利益	6,746	6,961	+ 214	6,961	+ 0
販売費・一般管理費	4,684	4,944	+ 259	4,944	+ 0
うち、人件費	2,911	3,048	+ 136	3,048	+ 0
営業利益	2,061	2,017	△ 44	2,017	+ 0

HS事業部門は、数年来の戦略を継続し、人員の増加によって新規開拓、既存顧客へのサービス体制をより一層拡充することで顧客件数の増加を図ってまいります。

2021年3月期 セグメント別見通し【ES事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期			
	通期実績	修正計画	前期差異	期初計画	期初計画差異
売上高	2,261	2,320	+ 58	2,320	+ 0
防錆機器取付施工	1,124	1,272	+ 148	1,272	+ 0
その他	1,137	1,047	△ 90	1,047	+ 0
売上原価	1,072	1,045	△ 27	1,045	+ 0
うち、労務費	256	254	△ 2	254	+ 0
売上総利益	1,188	1,274	+ 85	1,274	+ 0
販売費・一般管理費	907	991	+ 84	991	+ 0
うち、人件費	538	588	+ 50	588	+ 0
営業利益	281	282	+ 0	282	+ 0

ES事業部門は、管理会社などの提携先開拓、既提携先の密なフォローによる紹介や、不動産オーナーとの直接商談の機会を増やし、主力商品である「防錆機器取付施工（商品名：ドールマンショック）」の販路を拡大してまいります。

2021年3月期 セグメント別見通し【環境資源開発事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期			
	通期実績	修正計画	前期差異	期初計画	期初計画差異
売 上 高	16,759	16,824	+ 64	16,779	+ 45
プラスチック燃料	10,111	10,350	+ 238	10,316	+ 33
発電所売上	3,023	3,359	+ 336	3,359	+ 0
有機廃液処理	1,968	1,987	+ 19	1,987	+ 0
埋立処理	1,122	583	△ 539	583	+ 0
その他の	533	543	+ 10	531	+ 11
売 上 原 価	11,375	11,761	+ 385	11,894	△ 132
うち、労務費	1,820	1,882	+ 62	1,881	+ 0
売 上 総 利 益	5,384	5,063	△ 321	4,885	+ 177
販売費・一般管理費	1,901	1,950	+ 49	1,961	△ 11
うち、人件費	1,067	1,113	+ 46	1,103	+ 10
営 業 利 益	3,483	3,112	△ 370	2,923	+ 189

環境資源開発事業部門は、プラスチック燃料の品質を高めるため受入物件の精査を進め、利益率及び効率性を改善してまいります。廃プラスチックに関しては、資源としての再利用の機運や適切な処理への関心が高まる中、当社グループはこれまでの経験を活かして資源循環型社会の構築に貢献してまいります。

2021年3月期 セグメント別見通し【エネルギー事業部門】

(単位：百万円)

	2020/3期	2021/3期			
	通期実績	修正計画	前期差異	期初計画	期初計画差異
売上高	9,132	9,266	+ 134	9,916	△ 650
売上原価	9,203	8,591	△ 612	9,128	△ 537
うち、材料費	8,795	7,949	△ 845	8,268	△ 319
売上総利益	△ 71	675	+ 746	788	△ 113
販売費・一般管理費	413	649	+ 235	671	△ 22
うち、人件費	228	365	+ 137	362	+ 3
営業利益	△ 485	26	+ 511	116	△ 90

エネルギー事業部門は、新電力事業の前期は大幅な赤字を計上いたしました。今期は電力調達の方針を見直し取引価格が低下傾向にある市場からの調達割合を増やすことで収益の改善を進めており、引き続き期初計画通りに進む見込みであります。

また、前年度より他社と協業し取り組んでまいりました戸建て住宅を対象とした第三者所有型太陽光発電モデルについて、新型コロナウイルス感染防止による対面営業の自粛等の影響が、感染者数が落ち着かない東京圏を中心に長引いたことを受け、第2四半期の新規受注件数が想定を4割ほど下回り推移いたしました。そのため、この事業の見込みについては期初計画を見直し下方修正いたしました。

資料編

第2四半期の新型コロナウイルス感染症による影響状況

- 第2四半期の売上高は、コロナによる影響はあったものの、**概ね計画通りに推移**

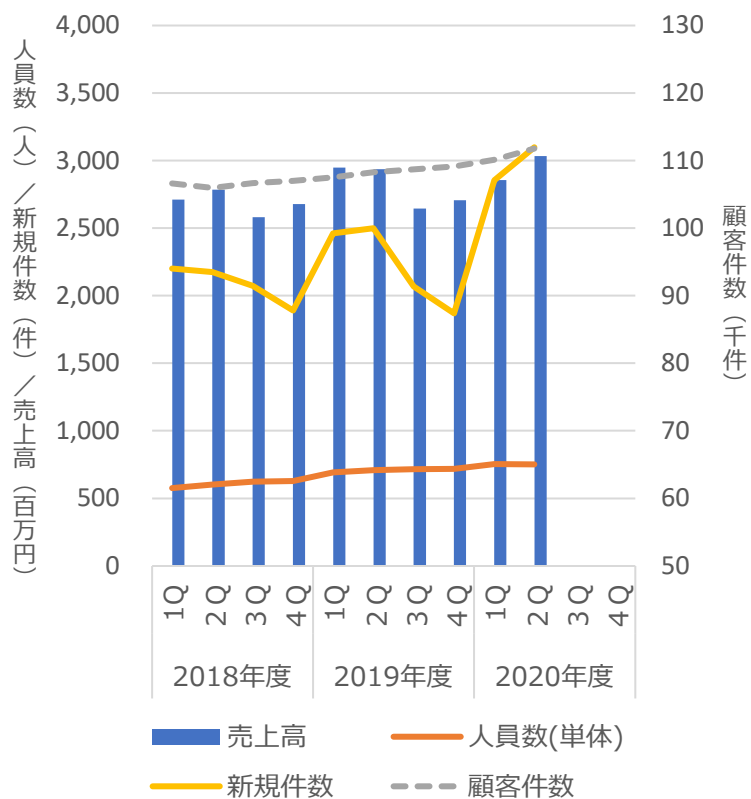
(単位：百万円)

2021年3月期	1Q (4-6)	2Q (7-9)	2Q累計 実績	2Q累計 計画	コロナ感染症による影響
売上高	11,893	12,053	23,947	24,180	概ね計画通り（計画比△1.0%）
S E 部門	3,024	2,374	5,399	5,625	営業活動の抑制により「自家消費型」営業への移行がずれ込み新規受注が減少
H S 部門	2,854	3,031	5,886	5,869	緊急事態宣言時は営業自粛と施工延期の影響があったものの、解除後は回復
E S 部門	520	611	1,132	1,096	業務提携先企業の活動休止で営業活動に影響を受けたが、6月から徐々に回復
環境資源開発部門	4,131	4,164	8,296	8,308	一部の廃棄物排出元の工場稼働が停滞したことにより搬入量が減少
エネルギー部門	1,963	2,438	4,402	4,508	電力供給先の事業停滞により供給量減少したが、事業活動の再開により回復
セグメント間の 内部売上高調整額	△602	△567	△1,169	△1,227	

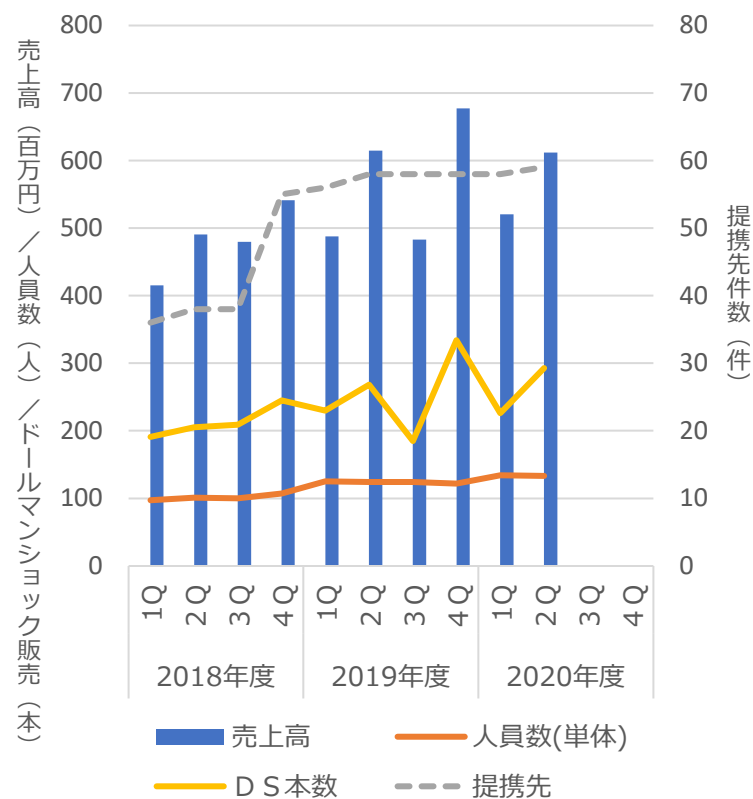
コロナ禍の中での営業で、当社の事業は「世の中に必要なもの」とであると再認識

- 今期、コロナ禍においてもHS・ES事業部門は堅調な業績を示している。

HS事業の業績推移



ES事業の業績推移



国内の太陽光発電市場の成長要因

「温室効果ガス排出を2050年に実質ゼロ」とする首相宣言（2020年10月）

① 普及拡大への法整備・助成

- ・太陽光発電 + 蓄電システム等による自家消費型※転換への支援拡大
- ・新規の電力ビジネスへの法整備、支援拡大

② 税制優遇措置

- ・中小企業の節税対策としての効果（特別償却、税額控除など）

③ 社会環境の変化

- ・SDGs、ESG投資、RE100など電力需要家主導の導入展開
- ・電力レジリエンス強化に向け、太陽光発電を含む分散型電源市場が拡大

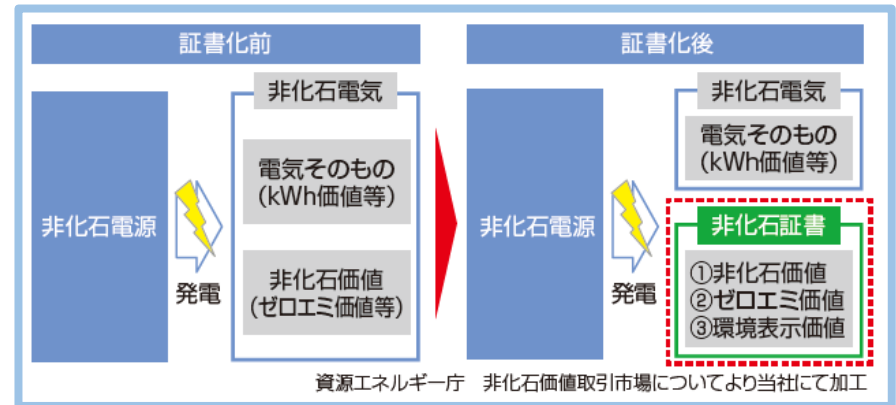
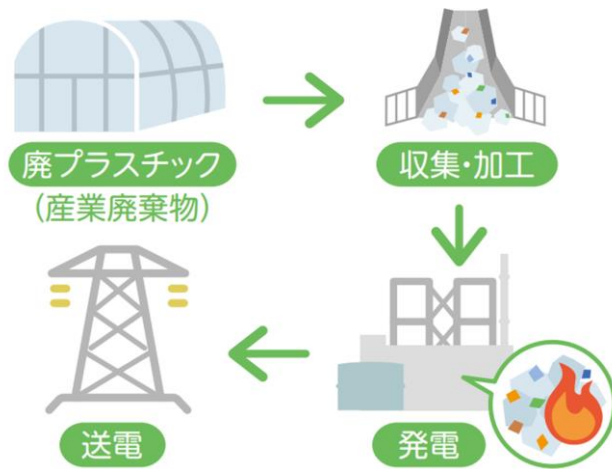
<※自家消費型モデルのメリット>

- ① 電力の自家消費により「**電気代の削減**」
- ② 再エネのCO2削減による環境への取り組みで「**企業評価向上**」
- ③ 自家消費型太陽光発電により災害時の「**停電リスクの低減**」

非FIT非化石電源として認定

- 廃プラスチックを化石燃料の代替燃料として資源循環型発電に取り組んでいる、サニックスエナジー 苫小牧発電所が「非FIT非化石電源」として国から認定
- 2020年度発電分より、『非FIT非化石証書』を発行予定

苫小牧発電所で、廃プラ燃料を有効利用することで、
発電換算で年間20万トンの石炭火力発電燃料を削減



■ 非化石電源の種類

	再エネ指定		再エネ指定無し
	FIT電源	非FIT再エネ電源	非FIT非化石電源
例	太陽光、風力、小水力、バイオマス、地熱 等	大型水力 等	原子力 廃プラスチック等

サニックスエナジーは、非FIT非化石電源に該当。

非FIT非化石証書に係る認定の趣旨・目的

エネルギー供給構造高度化法において、小売電気事業者は自ら供給する電気の非化石電源比率を2030年までに44%とすることが求められており、この目標の達成を後押しするために非化石価値取引市場が創設されました。

「非FIT非化石電源に係る非化石証書」の発行についても、その信頼性を担保するため非FIT非化石電源から発電される電力量の認定を行うことになっています。

廃プラ問題と脱炭素化の両方を解決する発電システム

- 経済合理性から再生が難しいプラスチックを、化石燃料の代替として有効活用
- 国内唯一の廃プラ専焼発電所 → 16年間培ってきた「技術」と「知見」

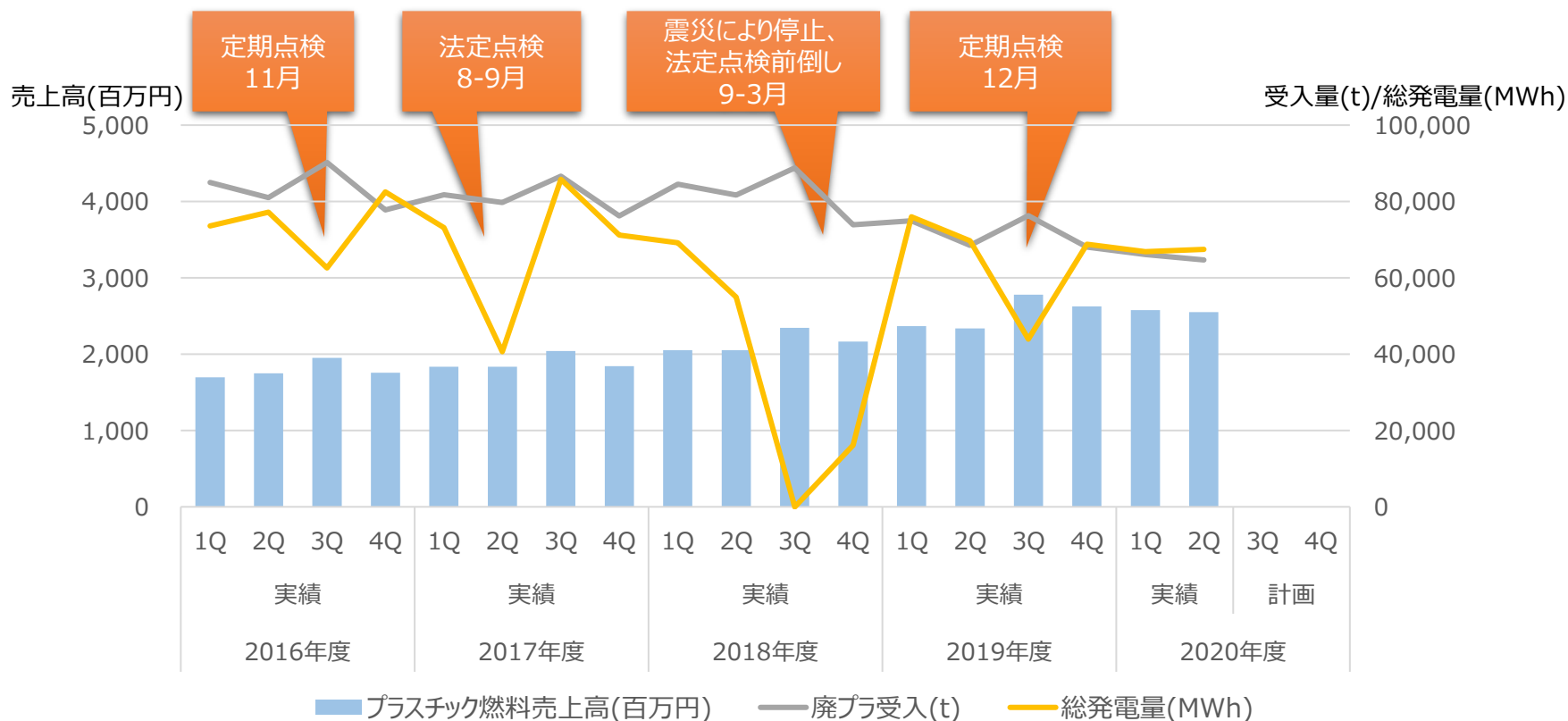


『プラスチック資源循環戦略』 (令和元年5月に国が策定)

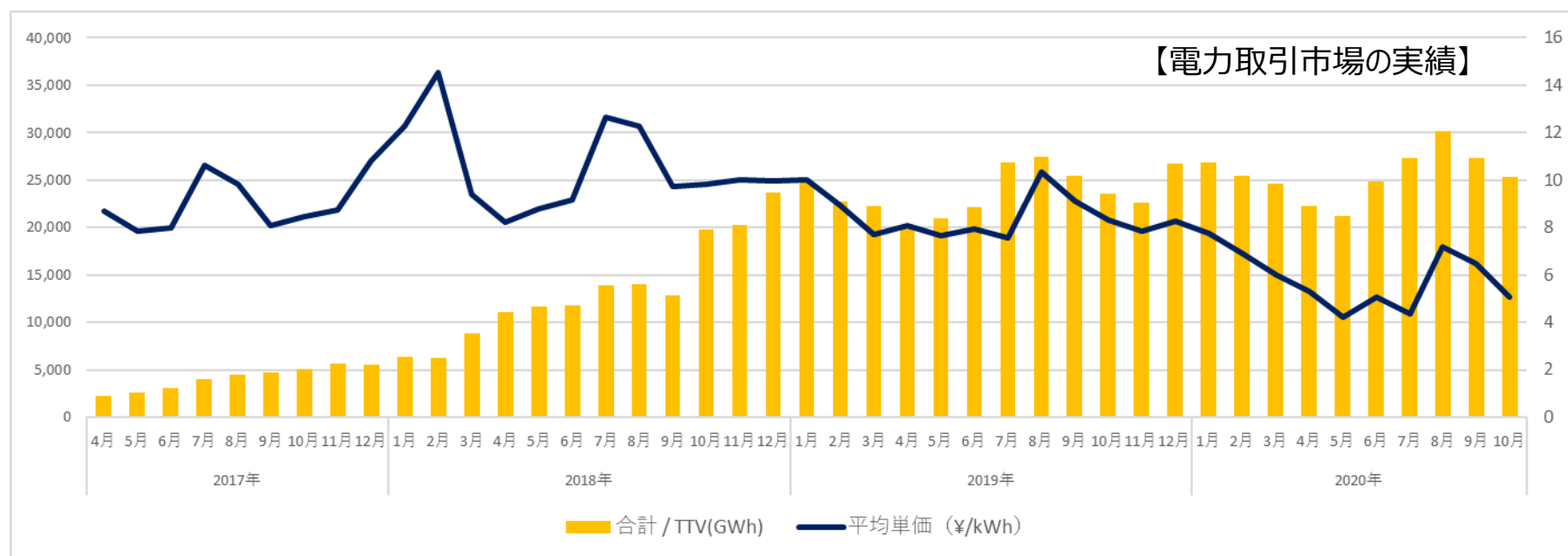
基本原則：「3R + Renewable」

循環型社会形成推進基本法に規定する基本原則を踏まえ、できる限り長期間プラスチック製品を使用しつつ、使用後は、効果的・効率的なリサイクルシステムを通じて、持続可能な形で、徹底的に分別回収し、循環利用（リサイクルによる再生利用、それが**技術的経済的な観点等から難しい場合には熱回収によるエネルギー利用**を含め）を図ります。
(一部抜粋)

- 前期までの受入物件の精査に加え、新型コロナウイルス感染対策の影響による排出元工場の稼働休止等により搬入量が低下しているが、売上高・利益は維持している。
- 苫小牧発電所は、2021年3月に法定点検を実施する予定。
 - 法定点検は2年に1回実施（タービン：4年ごと、ボイラー：2年ごと）



- 2018年4月より、大手電力会社と相対調達を開始。
- 新電力事業者は取引市場からの電力調達に苦労していたが、当社にとっては優位に働いた。
- 2019年度は市場取引される電力量が増加し、取引価格も低下傾向となった。
- 2020年6月より契約を見直し、一部の相対調達を解消し市場調達の比率を引き上げたことにより、収益力改善。



JEPXの「スポット市場インデックス」資料を当社が加工

		2019/3期 実績	2020/3期 実績	2021/3期 予定
総資産		31,009百万円	32,514百万円	32,200百万円
純資産		4,193百万円	6,056百万円	7,300百万円
自己資本比率		13.42%	18.55%	22.77%
自己資本当期純利益率	ROE	5.85%	36.31%	20.12%
総資産経常利益率	ROA	3.88%	8.16%	5.51%
投下資本利益率	ROIC	2.31%	10.77%	7.96%
フリーキャッシュ・フロー		△972百万円	1,926百万円	251百万円
設備投資額		1,080百万円	2,742百万円	2,000～ 2,500百万円